学びて時にこれを習ふ ―『論語』から

『論語』の基本情報：作者（孔子）と構成

「論語」を学ぶ前に、まずはテストでよく聞かれる基本情報を確認しておこう。

作品名	論語（ろんご）
何が書かれているか	中国の古代の思想家である孔子（こうし）と、その弟子たち（顔淵（がんえん）・子貢（しこう）・子路（しろ）など）の言葉や行いを記録した言行録（げんこうろく）。
漢文の「子」とは	男子に対する敬称のこと。「子曰はく（先生がおっしゃるには）」の「子」は、孔子のことを指しているよ。

漢文特有のルール：置き字・返り点・反語／詠嘆のポイント



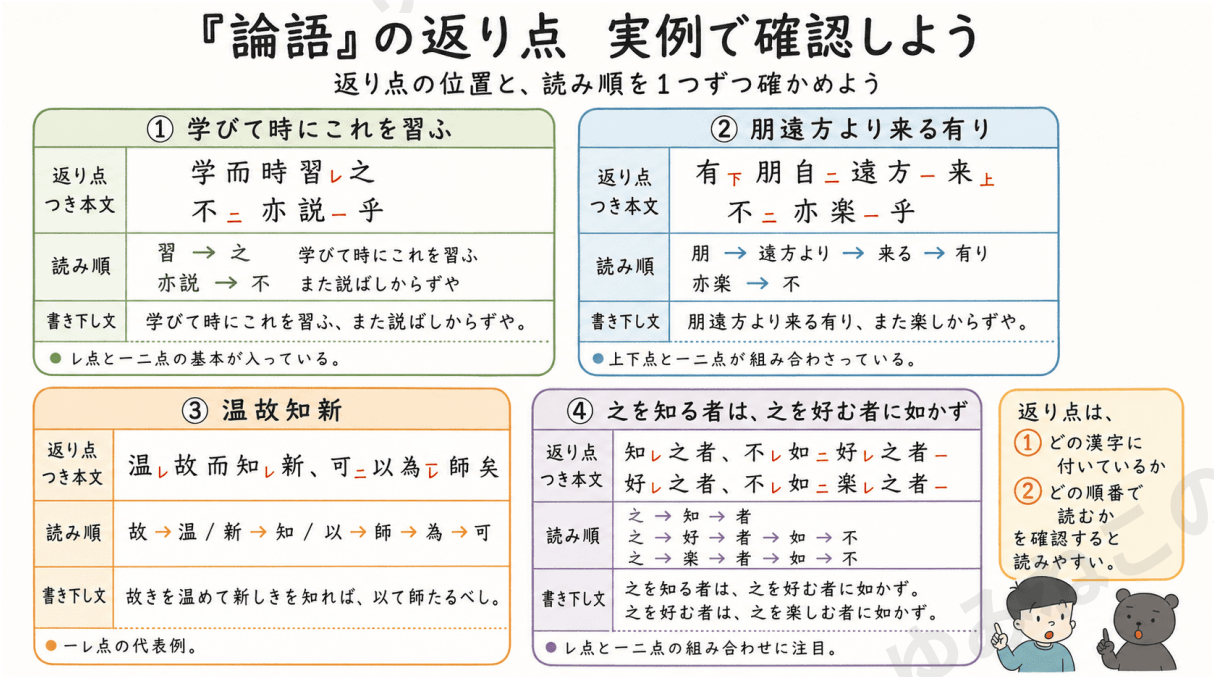
漢文には「返り点（レ点・一二点など）」や「送り仮名」がついて、日本語として読めるように工夫されているよね。ここでとくに注意したいルールを確認しておこう！

・【注意！】置き字は書き下し文には漢字のまま書かない
置き字である「而」「矣」などは、白文（漢字だけの文）には書かれているけれど、書き下し文では漢字のまま書かず、読むときも漢字としては発音しないよ。なお、「而」が置き字でも、書き下し文では前後のつながりに合わせて「て」「して」「れば」などの送り仮名を補うことがあるんだ。

© ゆみねこの教科書

・上下点の読み方
上下点は、一二点よりも大きく返って読むときに使われる返り点だよ。下点がついた字はいったん飛ばし、上点がついた字まで読んでから、下点がついた字に返るんだ。
たとえば「有下朋自二遠方一来上」は、「有」をいったん飛ばし、「朋遠方より来る」と読んでから「有り」に返るので、「朋遠方より来る有り」となるよ。
・一レ点の読み方
一レ点は、一点とレ点が同じ字についている返り点だよ。まずレ点の働きで、すぐ下の字を先に読み、そのあと一レ点がついた字を読み、さらに二点がついた字に返るんだ。
たとえば「可二以為一レ師矣」の「為一レ」では、まず下の「師」を読んでから「為」を読み、最後に「可」に返るよ。
・反語・詠嘆の表現（亦…ずや）
「不二亦～一乎」の形は、「なんと～ではないか」と文末を強く言い表す詠嘆（えいたん）（感動や驚きを深く表すこと）の表現だよ。反語（～だろうか、いや～ない）の形をとって強い肯定や感動を表す、漢文特有の重要な言い回しなんだ。

【書き下し文・現代語訳】『論語』重要章句の徹底解説



それでは、それぞれの章句について、白文・返り点つき本文・書き下し文・現代語訳と、重要な語句の意味を順番に見ていこう。

© ゆみねこの教科書

其の一：「学びて時にこれを習ふ」（学問の喜び）

学問に向き合う姿勢や、人と関わるときの心がまえについて述べた章句だよ。

1．原文（白文）

子曰学而時習之不亦説乎
有朋自遠方来不亦楽乎
人不知而不慍不亦君子乎

2．返り点つき本文

子曰、「学而時習レ之。不二亦説一乎。
有下朋自二遠方一来上。不二亦楽一乎。
人不レ知而不レ慍。不二亦君子一乎。」

※「而」は置き字なので、漢字としては読まないよ。ただし、書き下し文では前後のつながりに合わせて「て」「して」などの送り仮名を補うよ。

3．書き下し文（読み方）

子（し）曰（い）はく、
「学（まな）びて時（とき）にこれを習（なら）ふ、また説（よろこ）ばしからずや。
朋（とも）遠方（えんぽう）より来（く）る有（あ）り、また楽（たの）しからずや。
人（ひと）知（し）らずして慍（うら）みず、また君子（くんし）ならずや。」と。

4．現代語訳（意味）

先生がおっしゃるには、
「学んで、機会があるたびに復習し、体得する。なんとうれしいことではないか。
友人が遠くからやって来る。なんと楽しいことではないか。
世の中の人が認めてくれなくても不平や不満を抱かない。それでこそ君子ではないか。」と。

5．重要語句

語句	意味
子（し）	先生（ここでは孔子のこと）。
時に（ときに）	機会があるたびに。
習ふ（ならふ）	復習して体得する。
説ばし（よろこばし）	うれしい。
亦…ずや（また…ずや）	なんと～ではないか。文末を強く言い表す表現（詠嘆）。

© ゆみねこの教科書

朋（とも）	同じ学問を志す友人。
慍みず（うらみず）	不平や不満を抱かない。（「いきどおらず・いからず」とも読む）
君子（くんし）	徳の高い立派な人、人格者（じんかくしゃ）。

6. テスト対策ポイント

・「朋」とは誰のことか？
ただの遊び友達ではなく、「同じ学問を志している友人」のことだと理解しておこう。

・上下点の読み方
「有下朋自二遠方一来上」の部分は、上下点と一二点が組み合わさっているので、読み順に注意しよう。
まず「有」はいったん飛ばし、「朋」→「遠方より」→「来る」と読んでから、最後に「有り」に返るよ。だから、光村図書の読みでは「朋遠方より来る有り」となるんだ！

・この章句の主題（伝えたいこと）
学問を学ぶことの喜びと、「世間に認められなくても、不満を持たずに学問に励むことができるのが素晴らしいこと（君子である）」という孔子の考え方が表れているよ。

其の二：「故きを温めて新しきを知る」（温故知新）

有名な四字熟語「温故知新」の語源になった章句だよ。

1. 原文（白文）

子曰温故而知新可以為師矣

2. 返り点つき本文

子曰、「温レ故而知レ新、可二以為一レ師矣。」

※「而」と「矣」は置き字なので、漢字としては読まないよ。ただし、書き下し文では前後のつながりに合わせて「て」「れば」などの送り仮名を補うことがあるよ。

3. 書き下し文（読み方）

子曰はく、
「故（ふる）きを温（あたた）めて新（あたら）しきを知（し）れば、以（もつ）て師（し）たるべし。」と。

© ゆみねこの教科書

4. 現代語訳（意味）

先生がおっしゃるには、
「過去の学説や事例に習熟して、新しい意味を得ることができるようになれば、師となる資格があるだろう。」と。

5. 重要語句

語句	意味
故き（ふるき）	昔のこと、昔の教え、古い事柄。（過去の学説や事例など）
温めて（あたためて）	重ねて研究して、習熟して。（「たずねて」とも読む）
師（し）	人に教える立場の人、先生。

6. テスト対策ポイント

・四字熟語「温故知新（おんこちしん）」
この章句から作られた四字熟語「温故知新（おんこちしん）」は漢字で書けるようにしておこう。
現代でも、「日本の伝統的な技術を大切に守りながら、最新のテクノロジーを組み合わせて新しい製品を作る」といった場面でよく使われる言葉だよ！

・一レ点の読み方
「可一レ以為一レ師矣」の「為一レ」には、一点とレ点が同じ字についているよ。このような返り点を一レ点というんだ。
読み順は、「以」→「師」→「為」→「可」。つまり、「以て師たるべし」と読むよ。
「一レ点」は、まずレ点の働きで下の字を読み、そのあと一点の働きで二点の字に返る、と考えよう！

・この章句の主題（伝えたいこと）
「過去の出来事や学説を十分に研究し、そこから新たな知識や発見を得られるようになれば、師となる資格があるといえる」ということだよ。

© ゆみねこの教科書

其の三：「学びて思はざれば則ち罔し」（思考の大切さ）

学問を学ぶうえで、「教わること」と「自分で考えること」のバランスの大切さを説いた章句だよ。

1. 原文（白文）

子曰学而不思則罔思而不学則殆

2. 返り点つき本文

子曰、「学而不レ思則罔。思而不レ学則殆。」

※「而」は置き字なので、漢字としては読まないよ。ただし、書き下し文では前後のつながりに合わせて「て」などの送り仮名を補うよ。

3. 書き下し文（読み方）

子曰はく、
「学（まな）びて思（おも）はざれば則（すなは）ち罔（くら）し。思ひて学ばざれば則ち殆（あやふ）し。」と。

4. 現代語訳（意味）

先生がおっしゃるには、
「学んだだけで自分で考えなければ、明確には理解できない。
自分で考えただけで学ぶことがなければ、独断（どくだん）（自分一人だけの考えで決めること）に陥って危うい。」と。

5. 重要語句

語句	意味
罔し（くらし）	道理に暗い。判断がつかない。
殆し（あやふし）	危うい。あぶない。

6. テスト対策ポイント

・「罔し」「殆し」の意味
重要な語句なので、意味を正確に答えられるようにしておこう。「殆し」は、独断（どくだん）に陥ってしまうから「危うい」という意味だと押さえておくといいね。

© ゆみねこの教科書

・この章句の主題（伝えたいこと）
人から教わること（学ぶ）と、自分で深く探求すること（思う）のどちらが欠けてもダメで、両方が不可欠（ふかけつ）（なくてはならないこと）であるということ。

其の四：「これを知る者はこれを好む者に如かず」

何かを極めようとするときの段階について説いた章句だよ。
1．原文（白文）

子曰知之者不如好之者
好之者不如楽之者
2．返り点つき本文

子曰、「知レ之者、不レ如二好レ之者一。
好レ之者、不レ如二楽レ之者一。」

3．書き下し文（読み方）

子曰はく、
「之（これ）を知（し）る者（もの）は、之を好（この）む者に如（し）かず。
之を好む者は、之を楽（たの）しむ者に如かず。」と。

4．現代語訳（意味）

先生がおっしゃるには、
「それを知っているだけのものは、それを好む者には及ばない。
それを好む者は、それを楽しむ者には及ばない。」と。

5．重要語句

語句	意味
…に如かず（しかず）	…には及ばない。…には敵わない。

6．テスト対策ポイント

・一番優れているのはどれか？
「知る者」「好む者」「楽しむ者」の３つのうち、孔子が一番優れているとしたのは「楽しむ者」だよ。「好きこそものの上手なれ」という言葉に似ているね。
・返り点の付け方（一二点とレ点の組み合わせ）
「不レ如二好レ之者一」の部分は、一二点とレ点が組み合わさっているので、読み順に注意しよう。

© ゆみねこの教科書

「好㆑之」は「之を好む」と読み、「如㆓〜㆒」の形で「〜に如かず」と読むよ。つまり、「之を好む者に如かず」となるんだ！

「論語」テスト対策ポイントまとめ

・「論語」は、中国の古代の思想家である孔子（こうし）と、その弟子たちの言行録（げんこうろく）（言葉や行いを記録したもの）。
・漢文に出てくる「子曰はく」の「子」は、先生である「孔子」のことを指している。
・置き字（而・矣など）は、白文には書かれているけれど、書き下し文に直すときには漢字のまま書かず、読むときも漢字としては発音しない。
・上下点は、一二点よりも大きく返って読むときに使われる返り点。
・一レ点は、一点とレ点が同じ字についている返り点。
・それぞれの章句が「人間としての生き方や学問に対する姿勢」について何を伝えているのか（主題）をしっかり理解しておこう。

ゆみねこの教科書

© ゆみねこの教科書